

**事例 F** 3年次の実習(レベルⅢ 老年看護学実習) 7月実習

看護学生 F さんの日案をグループで作成してみましょう。

不足の情報はグループで適宜設定してください。

**看護学生 F さん**

レベルⅡ実習(2年次の実習。患者を一人受け持ち看護過程を展開する)で、整形外科病棟に入院している高齢患者を受け持ったがコミュニケーションがうまくとれなかったので、受け持ち高齢者とのコミュニケーションを心配しているとポートフォリオに記入されていた。

今回のレベルⅢ(3年次、老年看護学実習)は、Fさんにとって入学して3回目の実習である。高齢者施設での実習や認知症高齢者を受け持つことは初めてである。

**受け持ち患者 山本和子氏(仮名)**

89歳女性 身長152cm 体重45kg。第12胸椎圧迫骨折のため入院し、コルセット装着による保存療法を行っていたが、アルツハイマー型認知症(HDS-R 15点)があり、安静の理解が難しかった。リハビリを行い、その後介護老人保健施設に入居した。

入居後3週間が過ぎている。既往歴に骨粗鬆症、高血圧がある。現在痛みの訴えはない。要介護2、杖歩行。入浴以外の日常生活行動はほぼ自立している(日常生活自立度Ⅱb)が、促さなければ行うことは難しい。胸椎の圧迫骨折による円背により前屈するような姿勢である。

手すり設置などの住宅改修後、自宅に帰る予定である。

7月6日(火)実習2日目、学生Fさんは1日の報告で、山本さんへの朝の挨拶では学生の顔を覚えてくれたこと、コミュニケーションは顔を見て少しゆっくり・はっきりと話すようにしたら伝わり、山本さんのリハビリのお話も聞くことができたことを報告した。困ったこととして、食後の口腔ケアを促したところ、もう行ったから大丈夫と言われ、後でスタッフと一緒にいったと話し、「明日は口腔ケアの促し方について考えてきたいと思います」と述べた。

学生から1日の報告を聞いたあなたは、次のように考えました。Fさんは山本さんとのコミュニケーションをとることはできそうだが、口腔ケアを拒否されて困ったようだ。明日までに促し方を考えてくると話しているが、また拒否されて困るかもしれない。口腔ケア時の援助についての指導計画を考えておこう。

7月7日(水)実習3日目、学生Fさんは朝の行動計画発表時に、

「本日の実習目標は、受け持ち高齢者さんが円背による視野の制限や認知機能障害による転倒・転落の危険を回避し、安全に1日を過ごせること。学生の実習目標は、老健施設での高齢者の生活の理解を深める、としました。

具体的なケアとしては、山本さんの歩行時やベッドや椅子からの移動時に危険な動作が無いかを観察します。今日はリハビリの見学もしたいと思います。昨日の昼食後に口腔ケアを促したところ、山本さんに口腔ケアを拒否されてしまい、後でスタッフと一緒に行いました。山本さんは口腔ケアが嫌で私にうそをついたのかもしれませんが……。今日は、口腔ケアの意義について説明をして、繰り返し促したいと思います。」と述べた。

山本さんは口腔ケアだけでなく入浴等も拒否することがある。時間や季節の認識が乏しい。口腔ケア時は、円背による前屈姿勢のため、時々背筋を伸ばすように顔を持ち上げる動作も行っている。